

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第9号 畜産

発行日 平成28年 11月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 寒さの影響による牛の損耗を予防する。
- ◆ 冬期間は、牛舎内の換気不足に注意する。
- ◆ 飼料分析、土壌分析を実施し、適切な飼養管理・肥培管理を設計する。
- ◆ 冬期間の粗飼料確保量を把握する。

1 冬期間における飼養管理・衛生管理等の注意点

- (1) 厳冬期は体熱の生産に多くのエネルギーが使用されるので、気温の低下状況に応じてエネルギー源となる飼料の増給を行います。特に黒毛繁殖牛の周年屋外放牧を導入している場合は留意しましょう。
- (2) 換気不良や結露による湿度の多い牛舎環境は、牛に大きなストレスを与えます。牛舎内の換気量確保や牛床の乾燥等により牛にとって快適な環境を維持します。夏だけではなく、冬も換気を目的として換気扇を作動させましょう。
- (3) 分娩場所の気温確保に努めましょう。また、分娩後は子牛の濡れた体表を布等で拭き取り、速やかに乾燥させます。エネルギーの消耗や初乳の哺乳欲低下を防ぐことができ、その後の生育をスムーズにします。
- (4) 気温の低下により、搾乳器具・設備等の洗浄液の温度が下がると、洗浄効果が低下します。洗浄がうまくいく三大条件は洗浄液の濃度、量、温度です。このうち温度だけ欠けても効果は低下します。温度管理により洗浄液の排水温度を40℃以上に保ちましょう。
- (5) 踏み込み消毒槽の消毒液の汚れや凍結に留意します。厳冬期には消毒液のかわりに消石灰を利用することも考えましょう。

2 自給飼料・土壌(牧草地や飼料畑)の成分や確保量の把握

- (1) コーンサイレージ(CS)の栄養価、発酵品質を飼料分析で確認し、適正な量を給与します。CSは収穫時期により乾物率が大きく変動します。
- (2) 牧草地、飼料畑の土壌分析を行い、土壌改良資材の散布や来年の肥培管理の変更を考慮して、肥料の購入準備をします。
土壌改良資材の散布は一度にやろうとせず、毎年圃場を決めて順番に散布していきましょう。
- (3) サイレージや乾草などの冬期間の粗飼料確保量を把握し、給与計画を考えます。不足する場合は購入を検討します。

農作物技術情報の本年度定期発行は今号で終了となります。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。